

2025年～2026年シーズンにおける高病原性鳥インフルエンザ発生農場の疫学情報まとめ

	1例目 (R3シーズン発生)	2例目	3例目 (R4シーズン発生)	4例目 (R4.6シーズン発生)	5例目 (R4シーズン発生)	6例目	7例目	8例目	
基本情報	農場情報								
	都道府県	北海道①	北海道②	新潟県①	新潟県②	宮城県①	鳥取県①	兵庫県①	岡山県①
	市町村	白老町	恵庭市	胎内市	胎内市	日向市	米子市	姫路市	津山市
	発生日 (疑似患者判定日)	令和7年10月22日	令和7年11月2日	令和7年11月4日	令和7年11月9日	令和7年11月22日	令和7年12月2日	令和7年12月16日	令和7年12月20日
	用途	採卵	採卵	採卵	採卵	肉用	肉用	採卵	採卵
発生家きん舎	飼養羽数 (疑似患者確認時)	45.9万羽	23.2万羽	63万羽	28万羽	4.8万羽	7.5万羽	24万羽	43万羽
	家きん舎構造	ウインドウレス	ウインドウレス	ウインドウレス	セミウインドウレス	開放	開放	ウインドウレス	ウインドウレス
	家きん舎・ケージ構造	エビデアリー	8段ケージ4列、通路3本、2階建て	8段ケージ 10 列、通路6本、2階建て	8段ケージ8列、通路5本、2階建て	平飼い	平飼い	7段ケージ10列、通路6本、2階建て	8段ケージ6列、通路4本、2階建て
	飼養羽数	1.4万羽	3.5万羽	9.8万羽	7万羽	1.2万羽	0.5万羽	6.3万羽	6.4万羽
	通報時日齢	259日齢	666日齢	394日齢	156日齢	32日齢	36日齢	594日齢	455日齢
	入気口のフィルター設置・細菌消毒装置の有無	不織布、細菌消毒 (舎内)	なし	入口側から中央付近まで：フィルター、入気口の細菌消毒 中央付近以降は、入気口対策を実施していないため、11月以降閉鎖	細菌消毒 (舎内)	なし	なし	細菌消毒 (舎内)	細菌消毒 (舎内)
	通報時の死亡状況	・平時の死亡羽数は0～1/日。 ・10月21日朝に46羽の死亡を確認したため通報。死鳥の分布としては散在するも、3つある区画のうち、入口から見て手前側、真ん中に多い印象。死鳥以外には特に症状を呈さず。死鳥もチアノーゼ等特徴的な症状を呈していないかった。 ・家保による簡易検査中にさらに13羽が死亡。	・平時の死亡羽数は約17羽。 ・10月31日、24羽の死亡が確認されたが、鶏舎内で散在。 ・11月1日、朝の健康観察の際に最北側の奥の方のケージ最上段で4～5羽まとまった死亡を確認し農場長に連絡。その後再度鶏舎内を確認したところ、死亡鶏が増えたため、家保に連絡。午前は27羽死亡し、午後の見回りでもさらにまとまって死亡を確認。	・平時の死亡羽数は約13羽。 ・11月2日の鶏舎担当作業者による健康観察で55羽の死亡を確認。多くは1ケージ2羽程度でまとまっての死亡ではなかったことから、管理失速を疑い、経過観察とした。 ・11月8日、東から3列目の入口から見て最も奥の8段目ケージでまとまった死亡が確認されたため家保に通報。	・11月8日朝、4号鶏舎の1階7列目の入口側及び2階2列目の入口付近のケージでまとまって死んでいたことから、家畜保健衛生所に連絡。1ケージあたりの死亡羽数は1、2羽 (1ケージ6羽弱養) であった。	・平時の死亡羽数は約3羽/日。 ・死亡羽数が11月19日に11羽、20日に12羽と増加。番段から10羽程度の死亡は珍しくないので経過観察。 ・21日朝の健康観察時に散在した70羽の死亡を確認したため、飼養管理者が農場管理獣医師に連絡し、獣医師が簡易検査を実施したところ陽性となったため、家畜保健衛生所に連絡。	・平時の死亡羽数は1～2羽であるが、大腸菌症発生時は10～20羽。 ・11月25日、23羽死亡するが解剖所見から大腸菌を疑い、25～27日に抗衛素投与。 ・21日朝の健康観察時に散在した70羽の死亡を確認したため、飼養管理者が農場管理獣医師に連絡し、獣医師が簡易検査を実施したところ陽性となったため、家畜保健衛生所に連絡。 ・30日、死亡羽数が700羽まで増加したため、深夜、家保に連絡。	・平時の死亡羽数は10羽/日程度。 ・12月14日、発生鶏舎で16羽の死亡を確認。なお、15日 (通報日) にまとまって死亡が確認されたケージでは死亡鶏なし。 ・15日、発生鶏舎の1階の東端 (2号舎側) の列の4段目で18羽、背中合わせの反対側の列で15羽がまとまって死亡し、鶏舎全体の死亡羽数は44羽であったため、家保に通報。	・平時の死亡羽数は約15羽/日。 ・12月19日、4号鶏舎の最も北側の列5段目の出入口から見て最も奥の並んだ3つのケージでそれぞれ2羽ずつ死亡しているのが確認されたため、家保に連絡。
	発生日前日までの死亡羽数の推移 (発生鶏舎)	0羽⇒0羽⇒0羽⇒0羽⇒59羽	18羽⇒24羽⇒89羽	11羽⇒22羽⇒55羽⇒60～70羽	7羽⇒6羽⇒3羽⇒10羽	9羽⇒3羽⇒11羽⇒12羽⇒70羽	5羽⇒23羽⇒22羽⇒92羽⇒167羽⇒416羽⇒700羽	8羽⇒10羽⇒16羽⇒44羽	12羽⇒15羽⇒15羽⇒10羽⇒17羽
	簡易検査結果 (気管)	死鶏8/8、生鶏0/2	死鶏8/8、生鶏0/2	死鶏7/8、生鶏0/2	死鶏5/8、生鶏0/2	死鶏8/8、生鶏0/2	死鶏8/8、生鶏0/2	死鶏8/8、生鶏0/2	死鶏7/7、生鶏0/3
	コンベンショナルPCR検査結果 (気管)	死鶏8/8、生鶏2/2	死鶏7/8、生鶏1/2	死鶏8/8、生鶏2/2	死鶏5/8、生鶏0/2	死鶏8/8、生鶏1/2	死鶏7/8、生鶏0/2	死鶏7/8、生鶏0/2	死鶏7/7、生鶏1/3
リアルタイムPCR検査結果 (気管)	死鶏8/8、生鶏2/2	死鶏8/8、生鶏2/2	死鶏8/8、生鶏2/2	死鶏5/8、生鶏0/2	死鶏8/8、生鶏2/2	死鶏8/8、生鶏0/2	死鶏8/8、生鶏2/2	死鶏7/7、生鶏2/3	
従業員	従業員	13名	13名	24名	16名	2名	3名	14名	
外国人従業員	外国人従業員	2名	0名	1名	0名	0名	1名	3名	8名
周辺状況	当該事例から3km以内の発生事例 (発生日、距離) (当該事例発生日までの事例)	なし	なし	なし	国内3例目 (11月4日発生、南西約500m、防疫作業中)	なし	なし	なし	なし
	周辺環境	・白老川河岸段丘に位置し、周囲は東と南側に牧場、北側は雑地、西側は白老川の河畔林に囲まれる。 ・農場に隣接して北側に 25m × 120mの池が存在。 ・農場の北東に森が隣接し、カラスのねぐらとなっている可能性。	・平野部に位置し、周辺には畑があり、北側から東側にかけて未舗装道路及び河川敷を挟んで千歳川に接する。西側には千歳川の遊水地が存在。 ・農場敷地内南東端にため池が存在。	・平野部に位置し、付近は水田や林に囲まれる。	・平野部の海岸砂丘上に位置し、周囲は畑と草地、樹林に囲まれている。	・中山間地に位置し、ソーラーパネル及び愛電施設、養鶏場、樹林に囲まれる。周囲の谷戸田までは最短で400mで、一部に2番鶏が認められた。	・中山間地に位置し、樹林に囲まれる。 ・発生鶏舎南側は1mほどで山肌となっている。 ・農場周辺ではとビヤカラス類を確認。	・田畑と山林に囲まれ、農場側には道を挟んで川が流れるが、水量は少なく、水鳥類は確認されなかった。 ・農場の上空ではとビ、カラス類が数羽、農場内にはセキレイ類とインビヒドリが確認。	・山林や水田に囲まれる。 ・農場周辺の水田は、二番種落ち稲はある程度認められていたが、5割程度は稲穂されていた。 ・カモ類が行われるため、カモ類は少ないとのこと。
	近隣の水場 (ため池等) からの距離・野鳥の確認状況	・農場北西側に隣接施設の調整池があるが、カモ類など水鳥類は認められなかった。 ・南西に白老川とその河川敷樹林に2か所の池がある。樹林内の池にはマガモ2羽、コガモ約50羽が認められた。 ・白老川で約30羽のハンソガラスが水遊びに集まる。	・千歳川では調査時に野鳥は確認されなかったが、通常はハクチョウ類等の野鳥が多数見られる。 ・農場敷地内南東端のため池には1m間隔で縦横にテグスが張られており、調査時に野鳥は確認されず。	・農場から西に 250m 程度離れたところに、用水路が流れている。 ・農場から東に約1km 離れた地点にある水田にはハクチョウが複数羽飛来していた。また、水田付近を流れている用水路にはカモ類が飛来していた。	・北西1kmは海岸、南東側1.2kmは水田地帯となっている。	・北側約450mのため池においてカルガモ8羽を確認。 ・南側約2.5kmの河川において、カルガモやヒドリガモ等のカモ類約200羽、ハクセキレイやオオバン数羽を確認。 ・3.7kmの市街地の河川においてヒドリガモ等のカモ類約600羽を確認。	・北部に隣接して川が流れるが、流量は少なかつた。 ・南側約100mの池において、マガモ7羽、コガモ43羽、キンクロハジロ1羽を確認。	・東側の川の水量は少なく、水鳥は確認されず。北に170m、300m、460mの池にヒドリガモなど計22羽のカモ類を確認。 ・南に700mの池にはヒドリガモ95羽、トモガモ33羽などのカモ類173羽を確認。	・鶏舎のすぐ西側には飼養鶏の飲水取水用の池があったが、水鳥等は確認されず。 ・西120mの池では、約20羽のオンドリを確認。 ・北東1kmの池で13羽のカモ類 ・北東1.2kmの池で6羽のカモ類 ・南東1.7kmの池で40羽のカモ類
	農場内に侵入する野生動物と発見場所 (目撃・痕跡を含む、上空を飛んでいる野鳥は含めず。)	-	発生鶏舎裏口の集糞作業用準備室でネズミの糞を確認。	なし	なし	発生鶏舎横の農場敷地内でインシシの掘り返し痕を確認。	発生鶏舎周辺でインシシ・ネコの足跡を確認。	3号舎 (非発生) の外側でネコのような足跡を確認。	小鳥
	家きん舎内に侵入する野生動物 (目撃・痕跡を含む)	発生鶏舎と共通の前室を有する鶏舎 (17A、17B) でネズミを見かけることが増えた。	なし	ネズミ (生体・死体・糞を確認)	なし	ネズミ (断熱材かじり痕を確認)	ネズミ (死骸・足跡を確認) 過去に及音あり	なし	ネズミ (糞を確認)
	農場周辺・農場内のカラス類	【野鳥専門家の調査】 ・白老川で約30羽のハンソガラスが水遊びに集まる。 ・南東の牧草地に74羽のハンソガラスが飛来。 ・夏の牛牧場の堆肥置き場に10羽以上のハンソガラスが飛来。 ・南西の森に向かって、北東から約20羽のカラスが飛来。森にねぐらの存在が疑われる。 【聞取り】 ・通報2日前、北東に隣接する森で、多数のカラスが騒がしく鳴いていた。	【疫学調査時の観察】 ・農場敷地や建物の屋根にカラスが留まる。 【聞取り】 ・発生時期は上空をカラスが飛来。	【聞取り】 ・発生時期は上空をカラスが飛来。	【野鳥専門家の調査】 ・約400mの堆肥場の周辺樹林に約20羽のハンソガラスを確認。 ・西350mの農場内に約10羽のハンソガラスを確認。 【聞取り】 ・上空によりカラスが飛来する。	【聞取り】 ・2週間前、カラスの大群が2日間農場北側に集まっていた。	【野鳥専門家の調査】 ・農場周辺で4羽のカラス類を確認。	【野鳥専門家の調査】 ・農場上空で5羽のカラス類を確認。	【疫学調査時の観察】 ・農道の山林で数羽のカラス類が飛行。
疫学情報									
発生家きん舎	生体の過去21日間の導入日・頻度等	10月20日、隣接鶏舎 (18B) に、約100日齢の育成鶏を導入	なし	10月28日、N-3鶏舎に約100日齢の鶏を導入	10月2日～4日、4号鶏舎 (発生鶏舎) に120日齢を導入	10月22日、当該鶏舎に初生ひなを導入	10月24日～27日、約2か月ごと	10月6日～10日 (3号舎)	12月8日～12日 (8号鶏舎)
	生体の過去21日間の出荷日・頻度等 (採鳥・輸送)	10月6日	なし	10月1日ごろ	令和6年11月の発生以降に最初に導入をしたロットであり、後鶏出荷はまだしていない。	10月8日	10月8日～16日	9月1日	11月27日
	飼料業者 (輸送) の過去21日間の立入り・頻度等	毎日	5～6回/週	日曜を除く毎日	日曜を除く毎日	3～5日に1回	ほぼ毎日	毎日	日曜を除く毎日
	敷料調運 (輸送) 頻度	-	-	-	-	入厩時及び随時 直近の搬入日は11月19日	・オールイン時 ・約2か月ごと	-	-
	除糞ベルト出口、ビット等のシャッター、蓋等の有無、隙間の有無等	除糞コンベアの堆肥搬出部分につながる部分には手動シャッターが設置されていたが、シャッターとコンベアの間には小動物が侵入可能な隙間あり。	・除糞ビットには木製の蓋を設置。 ・2号鶏舎のみ鶏糞積み込み場所が外に露出する構造。	鶏糞は閉鎖系で堆肥施設までコンベアで運ばれる構造になっており、堆肥施設も基本的に閉鎖系で隙間には防鳥ネットが張られており、野鳥、野生動物等が入りにくい構造	鶏舎からダンブ種農場までのベルトラインは閉鎖系の構造になっており、ダンブ種農場は作業時以外はシャッターが閉められている。	平飼い	平飼い	・鶏舎内の鶏糞溜とし口には蓋が設置されていたが、蓋の劣化により約3cmの隙間あり。 ・ダンブ種農場は作業時以外はシャッターが閉められている。	・鶏舎内の床面開口部には不使用時は蓋が設置。 ・除糞ベルトが外部に出ている部分にはカバーが設置されていたが、野生動物等が侵入可能な隙間を一部確認。
	死亡鶏処理の方法、処理の頻度等	毎朝回収し、農場外の共同堆肥場の縦型コンポストで堆肥化。	毎日回収し、ビニール袋に入れて運搬し、集卵所隣の蓋付きの金属容器内に保管。 毎週月、金に産業廃棄物として回収。	・農場内の縦型コンポストで堆肥化 ・2日に1回、鶏糞ベルト稼働時に一緒に死亡鶏をラインに入れる。	縦型コンポストで堆肥化。	業者 (松本畜産) が毎日回収	・毎朝各鶏舎から回収し、各鶏舎前室かごや段ボールに置いたものを従業員が軽トラで収集。 ・収集した死亡鶏を本社の冷蔵庫に運搬。 ・軽トラは搬出時に消毒、本社で死亡鶏を処理した際も洗浄・消毒。	死亡鶏は毎日の見回りの際に鶏舎内の蓋つきバケツに保管、週に2回の除糞ベルト稼働させるタイミングで糞と混ぜて搬出。	・鶏舎内で蓋つきバケツに保管後、バケツを各鶏舎西側の裏口から乾燥糞置き場に運搬し、鶏糞に混ぜて堆肥化。
	集卵バーコンベア出口のシャッターの有無 (手動・自動)、隙間の有無、家きん舎外バーコンベア上のカバーの有無等	集卵バーコンベアは全て室内を通る構造	手動集卵シャッター有	集卵バーコンベアは全て室内を通る構造	集卵バーコンベアは全て室内を通る構造	肉用	肉用	バーコンベアの鶏舎出入口にはシャッターがあり、開ける際は自動、閉める際は手動	・屋外に出る部分は上部・下部ともにカバーが設置。 ・バーコンが外部と接続する箇所には手動のシャッターが設置。
	廃棄物処理の方法、処理の頻度等	死亡鶏と同様	集卵所隣の死亡鶏とは別の金属容器内に保管。 毎週月、水、金に産業廃棄物として回収。	農場内の縦型コンポストで堆肥化 4日に1回、鶏糞ベルトで鶏糞と一緒に堆肥施設へ搬出	縦型コンポストで堆肥化。	肉用	肉用	破断は見つけ次第、除糞ベルトへ廃棄。	死亡鶏と同様。
	堆肥舎・堆肥置き場 (発熱した肥を含む、袋詰め後の製品は含まない。) 及び死鳥置き場の共有	鶏糞・死鳥・廃棄物を共同堆肥場へ搬出	なし	なし	堆肥舎は鶏舎とは別の独立した衛生管理区域であり、自社他農場の鶏糞や豚糞と共にコンポスト処理している。	堆肥舎は鶏糞と本社の冷蔵庫に運搬。	AO時に糞を搬出し、共同堆肥場へ搬出	一時保管場所まで運搬された後、共同堆肥場へ運ばれる。	乾燥糞と生糞を混合後、衛生管理区域外の堆肥舎で一時保管後、共同堆肥場に運搬される。
	発生鶏舎以外での疫学分析検査可能性	有	有	有	採材せず	なし	なし	なし	なし
	その他特記事項	・隣の鶏舎の電気室で、業者が細菌装置取付工事を実施。	・鶏舎建設工事中で農場内への建設作業員の出入りあり。	・ネズミ死体からウイルス分離。	-	-	-	-	-

	9例目	10例目 (R2.4シーズン発生)	11例目	12例目	13例目	14例目 (R3シーズン発生)	15例目	16例目
農場情報								
都道府県	京都府①	茨城県①	北海道③	埼玉県①	宮城県②	兵庫県②	香川県①	三重県①
市町村	亀岡市	城星町	由仁町	嵐山町	延岡市	姫路市	東かがわ市	津市
発生日 (疑似患者判定日)	令和7年12月24日	令和7年12月25日	令和7年12月29日	令和7年12月30日	令和8年1月2日	令和8年1月8日	令和8年1月10日	令和8年1月13日
用途	採卵	採卵	採卵	採卵	肉用種鶏	採卵	採卵	採卵
飼養羽数 (疑似患者確認時)	28万羽	97万羽	0.6万羽	24万羽	0.6万羽	15.5万羽	2.4万羽	2.5万羽
家きん舎構造	ウインドウレス	ウインドウレス	開放	ウインドウレス	開放	ウインドウレス	開放	セミウインドウレス
家きん舎・ケージ構造	8段ケージ6列、通路4本、2階建て	6段ケージ12列、通路7本、2階建て	平飼い	7段ケージ6列、通路4本、2階建て	平飼い	8段ケージ6列、通路4本、2階建て	ひな壇4段ケージ10列、通路5本、2階建て	4段ケージ8列、通路5本、2階建て
飼養羽数	4.4万羽	9.8万羽	1500羽	2.7万羽	0.3万羽	3.9万羽	2.4万羽	2.5万羽
通報時年齢	879日齢	353日齢	96日齢	549日齢	236日齢	204日齢	288日齢	84日齢
入気口のフィルター設置・細菌消毒装置の有無	なし	不織布	なし	なし	なし	なし	なし	育雛舎 (発生時空舎) のみ細菌装置設置。
通報時の死亡状況	・平時の死亡羽数は約25羽/日。 ・12月23日前、出入口から見て左から1・2列目の6・7段目の奥側のケージでまとまって死亡が確認され、死亡羽数が90～100羽であったため、家保に通報。	・平時の死亡羽数は15羽/日。 ・12月22日に30羽死亡。死亡鶏は散在し、前日の夏雉と判断。 ・23日の死亡は9羽。 ・24日、南側から4列目の西側の裏口に近い方の下から4段目のケージ(ケージAとする)において、6羽中6羽の鶏が死亡しているのが確認。また、背中合わせの3列目のケージでも8羽中3羽死亡し、そのケージの通路を挟んで向かい合った2列目のケージでも2羽衰弱を確認。ケージAの3羽について緊急検査を行ったところ、陽性となったため家保に連絡。	・平時、発生鶏舎の各群内での死亡はほとんどない。 ・12月16日、発生鶏舎のマス0及び10にイタチが侵入し、マス9で11羽、マス10で14羽の死亡を確認。その後、飼料摂取量が低下。 ・23日、マス10で12羽の死亡と衰弱した鶏が確認されたため、家保へ相談したところ、イタチ侵入の影響が大きいと考えられるため経過観察するよう指示。 ・24日～28日で継続して死亡が確認され、28日には複数のマスでも死亡が確認され始めたことから、家保が検査を実施し、簡易検査で陰性が確認。	・12月28日朝、発生鶏舎で少し死亡が多かったため(過去21日間の平均6.6羽のところ、13羽死亡)、農場で開腹した鶏の死体を管理獣医師に送付したところ、死亡が増えるようなら家畜保健衛生所に通報するよう指示。この時点での死亡、鶏は散在。 ・29日朝の見回りで、発生鶏舎で42羽死亡し、一部は固まって死亡していたことから、家保に通報。 ・通報時、死亡は鶏舎の中央～奥側でみられ、1階よりも2階で多くみられた。1ケージ5～6羽に2羽死亡しているケージが2～3あった。産卵率の低下はなかった。	・平時の死亡羽数は0～1羽/日程度。 ・1月1日午前中の見回りでは異状は確認されず。 ・1日午後の見回りで4羽が散在して死亡し、14羽の見回りで2羽が鶏舎奥側でまとまって死亡していたことから家保に連絡。	・平時の死亡羽数は、5羽/日程度。 ・1月3日から産卵率の低下が認められていた。 ・7日朝の見回り時、飼料給与時間にも関わらず、1階の南西側から1列目、下から2段目の14および15番ケージでは鶏が顔を出さなかったことと、糞状を感じ点検したところ、14番ケージで4羽、15番ケージで3羽の死亡を確認。鶏舎全体として死亡羽数が15羽と通常の2倍以上に増加していたことから、家保に連絡。	・平時の死亡羽数は約2羽/日。 ・1月9日、集卵作業後の12時過ぎの見回りで、北から4列目の入口に近い場所の下番3段を中心に40羽程度がかたまって死亡していたため家保に通報。 ・10日に4羽死亡、11日に3羽死亡と4羽衰弱(淘汰)を確認。死亡は散在。 ・12日に3ケージで4羽の死亡と2羽の衰弱(淘汰)を確認し、うち3羽は2列目中央付近の下から2段目の1ケージ、2羽は同列同段で3ケージ隣の1ケージで確認されたため、管理獣医師に相談の後、家保に連絡。	・平時の死亡羽数は0～1羽/日程度。 ・1月9日に3列目の入口から見て奥寄りの最上段(4段目)の1ケージ内で3羽の死亡と1羽の衰弱(淘汰)を確認。死体の状態から回収漏れの可能性を考えた。その後、当ケージの死亡増加はなし。 ・10日に4羽死亡、11日に3羽死亡と4羽衰弱(淘汰)を確認。死亡は散在。 ・12日に3ケージで4羽の死亡と2羽の衰弱(淘汰)を確認し、うち3羽は2列目中央付近の下から2段目の1ケージ、2羽は同列同段で3ケージ隣の1ケージで確認されたため、管理獣医師に相談の後、家保に連絡。
発生日前までの死亡羽数の推移 (発生鶏舎)	15羽⇒61羽※⇒46羽※⇒10羽⇒20羽⇒23羽⇒90～100羽 ※前日までに未回収の古い死亡鶏を含む。	11羽⇒15羽⇒30羽⇒9羽⇒19羽	4羽⇒26羽⇒22羽⇒23羽⇒33羽	6羽⇒7羽⇒8羽⇒13羽⇒42羽	1羽⇒0羽⇒0羽⇒1羽⇒10羽	3羽⇒0羽⇒8羽⇒6羽⇒15羽	0羽⇒2羽⇒4羽⇒3羽⇒40羽	1羽⇒4羽(1)⇒4羽⇒7羽(4)⇒6羽(2) ※()は死亡羽数のうち衰弱鶏
簡易検査結果 (気管)	死鶏8/8、生鶏2/2	死鶏8/8、生鶏2/2	死鶏8/8、生鶏1/2	死鶏8/8、生鶏2/2	死鶏8/8、生鶏2/2	死鶏8/8、生鶏2/2	死鶏8/8、生鶏2/2	死鶏6/6、生鶏1/4
コンパニョナルPCR検査結果 (気管)	死鶏8/8、生鶏1/2	死鶏8/8、生鶏2/2	死鶏8/8、生鶏1/2	死鶏8/8、生鶏2/2	死鶏8/8、生鶏2/2	死鶏8/8、生鶏2/2	死鶏8/8、生鶏2/2	死鶏6/6、生鶏1/4
リアルタイムPCR検査結果 (気管)	死鶏8/8、生鶏2/2	死鶏8/8、生鶏2/2	死鶏8/8、生鶏2/2	死鶏8/8、生鶏2/2	死鶏8/8、生鶏2/2	死鶏8/8、生鶏2/2	死鶏8/8、生鶏2/2	死鶏6/6、生鶏1/4
従業員	18名	49名	3名	15～16名	2名	8名	3名	2名
外国人従業員	3名	17名	0名	0名	0名	2名	0名	0名
当該事例から3km以内の発生事例 (発生日、距離) (当該事例発生日までの事例)	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
周辺環境	・山腹に位置し、林に囲まれる。 ・南200mに水田あり。水田には少数の二番穂あり。	・丘陵部の中腹に位置し、杉林や雑木林、田畑に囲まれる。	・平坦地に位置し、畑や果樹園、雑木林に囲まれる。	・丘陵地に位置し、樹林に囲まれる。 ・丘陵周囲は水田となっており、農業用のため池、貯水池が多く存在。	・山間地に位置し、樹林及び竹林に囲まれる。	・山間部に位置し、雑木林や竹藪に囲まれる。	・周辺には小さな田畑や住宅が点在。 ・水田は耕起され、二番穂や落ち穂は少ない。	・中山間地に位置し、樹木に囲まれる。
近隣の水場 (ため池等) からの距離・野鳥の確認状況	・西50mに幅5mの川あり。 ・東500mの民家の池でカルガモ2羽 ・西3kmの池でヨシガモ11羽	・西1.7kmのため池で24羽のか毛鷺。 ・北西800mのため池で6羽のか毛鷺。	・農場に隣接してため池あり(水鳥確認されず)。 ・東約300mに川。	・1km以内の17か所の池では確認されず。 ・南東1.2kmの池でカルガモ5羽、北1.4kmの池でコガモ12羽を確認。北1.4kmの池ではハンショウガモ23羽を確認。 ・西900mの水田でハンボンガラス23羽の群れを確認。	・南3kmの河川に水きん鶯6羽。	・農場に隣接したため池にサギ類2羽。 ・約3.5kmのため池にマガモ2羽。	・西200mの池にマガモ7羽。 ・南180mの池に2羽のか毛鷺。 ・北1kmの2箇所の池で合計30羽のか毛鷺。 ・東1.5km～2.5kmの3箇所の池で合計480羽のか毛鷺。	・農場敷地内に貯水池が2箇所あり。防鳥テープが張られていたが、野鳥の糞を確認。 ・北東200mの池でか毛鷺を数羽確認。 ・北西1.5kmの池でか毛鷺を数羽確認。
農場内に侵入する野生動物と発見場所 (自警・偵察を含む。上空を飛んでいる野鳥は含めず。)	なし	ムクドリ、ヒヨドリ、セキレイ類	イタチ、キツネ、アライグマ セキレイ スズメ (飼料保管庫内) キジ ネズミ (飼料庫)	ネコ (飼料配合施設)、カラス、アライグマ	なし	なし	ネコ、キツネ、カラス、スズメ	セキレイ
家きん舎内に侵入する野生動物 (自警・偵察を含む)	なし	ネズミ (糞を確認)	イタチ (発生の約2週間前に発生鶏舎に侵入。)	ネズミ、アライグマ (食害あり)	なし	ネズミ (生体、糞、インレット内に糞を確認)	ネコ、スズメ、ネズミ	なし
農場周辺・農場内のカラス類	【野鳥専門家の調査】 ・農場周辺でカラス類を2羽確認。 【聞き取り】 ・約10日前にカラスの大群が2日程にわたって農場付近の山に飛来。	・記録なし	・記録なし	【野鳥専門家の調査】 ・農場周辺でハンボンガラスが1～2羽点在。 ・西300mの水田でハンボンガラス23羽の群れを確認。 【聞き取り】 ・上空でカラスをよく見かける。	・記録なし	【疫学調査時の観察】 ・農場周辺の雑木林でカラスの飛来を確認。	【聞き取り】 ・鶏舎周囲でカラスが確認される。	【聞き取り】 ・隣接農場の共同堆肥場付近及び北東250mの養豚場周辺でカラスの群れをよく見かけ、農場にも飛来する。 ・隣接する林でよくカラスを見かける。 【疫学調査時の観察】 ・上空・周囲の林でカラスを確認。
疫学情報								
生体の過去21日間の導入日・頻度等	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
生体の過去21日間の出荷日・頻度等 (捕鳥・輸送)	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
飼料業者 (輸送) の過去21日間の立入日・頻度等	毎日	ほぼ毎日	12月24.25日	ほぼ毎日	12月12.22.27日 (週に2回程度)	2日に1回	週に2～3回	3日に1回 (法人事務所受け渡し場所からの搬入)
敷料譲渡 (輸送) 頻度	-	-	なし	-	なし	-	-	-
除糞ベルト出口、ピット等のシャッター、蓋等の有無、隙間の有無等	・除糞コンベアが外部に出ている部分にはカバーがなれており、野生動物等が侵入可能な隙間は確認されず。 ・ピットの開口部は高所にあり、野生動物の侵入は難しい構造。	閉鎖系コンベアで堆肥舎へ運搬。	平飼い	除糞ベルトの蓋の設置あり。 除糞ベルトの床下に小動物が通れる程度の穴あり。	該当なし	鶏舎開口部にはコンパネで蓋をしているものの、隙間を確認。 排水管開口部の蓋が破損し、鶏舎内に貫通。	該当なし	除糞ベルト出口は高所に位置する
死亡鶏処理の方法、処理の頻度等	・鶏舎内の運びか/バケツに一時保管された後、鶏舎担当が畜車でバケツを鶏舎外に運び、鶏舎担当が操作するホイールローダーに投入した後、鶏糞と共にコンポストで堆肥化。	・鶏舎のドアに設置された運搬用窓(密閉式)から鶏舎外に出す。 ・鶏舎外で別の従業員が運付き容器に入れ、衛生管理区域内のリーフアーコンテナで冷蔵保管し、化製業者が回収。	・各鶏舎から回収して事務所棟の密閉バールに保管し、ある程度集まった段階で死亡鳥処理機(加熱なし)で破砕後、堆肥舎に投入。	鶏舎内でカゴに回収し、鶏舎外へ搬出。鶏舎外でバケツローダーに投入後、発生鶏舎棟の処理機でミンチにしてコンポストへ投入。	・見回り時に回収後、袋に入れて農場内の焼却炉に運び、当日中に焼却。	鶏舎内の運びかバールに回収した後、死亡鶏のみを鶏舎内東側の除糞ピットへ投入する。除糞ピットに投入された死亡鶏は、コンベアで鶏糞と同様に一か所に集め、ダンプカーに積載し、堆肥舎のコンポストで毎日処理する。	かきが袋に入れて鶏舎と集卵室の間に一時保管した後、10羽程度溜まったら農場内で焼却処理。	除糞ベルトに廃棄し、糞と共に共同堆肥場で処理。
集卵バーコンベア出口のシャッターの有無 (手動・自動)、隙間の有無、家きん舎外/バーコンベア上のカバーの有無等	・屋外に出る部分には下部を除いてカバーが設置。 ・各様内の鶏舎間にはシャッターはないが、バーコンベアが外部と接続する箇所にはシャッターが設置されていた。	シャッターあり(手動) バーコン上部は金属製カバー、下部はネットあり。	集卵から回収	シャッターはなく、フェンスの設置あり。バーコン上部にはカバーあり。集卵室との接続部には隙間あり。	該当なし	バーコンシャッターの蓋は設置されておらず、バーコン下部全網の脱落あり。	出口なし	育成
廃棄物処理の方法、処理の頻度等	死亡鶏と同様。	除糞ラインに投入し、鶏糞と混合して堆肥化。	鶏糞と混合して堆肥化 飼料へ混合	鶏糞と共にコンポスト処理。	殻は焼却 液卵は排水に流す	鶏糞と混合して堆肥化	堆肥舎で鶏糞に混ぜる	該当なし
堆肥舎・堆肥置き場 (完熟たれ肥を含む。袋詰め後の製品は含まない。) 及び死鳥置き場の共有	・フレコンバッグに袋詰めした製品堆肥の系列農場への運搬あり。 ・系列農場からコンポスト処理後の堆肥の運搬あり。	なし	なし	なし	オールアウト時に共同堆肥場に搬出。	なし	なし	共同堆肥場
発生鶏舎以外での殺処分検査陽性	有	なし	採材なし	有	なし	有	なし	なし
その他特記事項	・11月中旬から12月中旬までダストチャンパー工事を実施。	-	・自家配合飼料のバラ積み。	-	・車庫消毒装置が鶏舎入口前に設置。	・除糞ピットでの鶏糞積み込み時に粉塵が飛散。	-	-

	17例目	18例目	19例目	20例目	21例目	22例目（R4シーズン発生）	23例目（R4シーズン発生）	24例目
農場情報								
都道府県	岐阜県①	千葉県①	千葉県②	岩手県①	北海道④	北海道⑤	宮城県①	青森県①
市町村	関市	旭市	旭市	金ケ崎町	安平町	千歳市	角田市	東北町
発生日（疑似患者判定日）	令和8年1月22日	令和8年1月27日	令和8年2月20日	令和8年2月21日	令和8年3月5日	令和8年3月25日	令和8年3月26日	令和8年4月22日
用途	肉用	うずら	採卵	採卵	肉用	採卵	あひる（あいがも）	採卵
飼養羽数（疑似患者確認時）	2万羽	10.8万羽	6万羽（関連2万羽）	56万羽	18.8万羽	46万羽	9000羽	23万羽
家きん舎構造	ウインドウレス	開放	開放	ウインドウレス	セミウインドウレス	セミウインドウレス	開放	開放
家きん舎・ケージ構造	平飼い	8段ケージ4列、通路5本	6段ケージ4列、通路4本、2階建て	6段ケージ4列、通路3本、1階建て	平飼い	4段ケージ8列、通路5本、1階建て	平飼い	6段ケージ8列、通路5本、2階建て
飼養羽数	5,000羽	9万羽	4号：1万 5号：1万	3.7万羽	9,400羽	3.5万羽	2号舎：1,138羽 4号舎：980羽	4.5万羽
通報時日齢	42日齢	45～300日齢	4号：224日齢 5号：497日齢	774日齢	40日齢	243日齢	2号舎：13日齢 4号舎：7日齢	JL-411日齢 BB-後藤もみじ：414日齢
入気口のフィルター設置・細菌消毒装置の有無	なし	不織布	なし	不織布（発生鶏舎のみ不織布の設置なし）	なし	なし	なし	なし
通報時の死亡状況	・平時の死亡羽数は5羽/日。 ・1月21日朝に散在した30羽の死亡を確認し、家保に連絡。発生鶏舎以外では死亡羽数の増加は認められず。また、発生鶏舎を含め、死亡増加以外に沈黙等の異状は観察されなかった。	・平時の死亡羽数は120～160羽/日程度。週1回程度、同一ロット内でケージ間で個体を移動させ、各区域の個体数を調整していた。 ・1月23日朝、入口から2列目中央付近の最下段ケージ（約300日齢）で5羽の死亡を確認。当該ケージの左右はいずれも空欄。 ・24日、入口から4列目（舎内最北側）中央付近の最上段ケージにおいて、死せうずら7羽を確認。同日中に当該ケージ内のうずらを全て後鶏シケージで消毒。 ・25日には、同列上段の複数のケージで散在して死亡を確認され、夕方にも死亡を確認したが、全体での死亡羽数は250羽と過去21日間の平均死亡羽数の倍には至らず。 ・26日も複数のケージで散在して死亡が確認されたため、家保へ通報。通報日の死亡羽数は250羽であり、死亡以外に、産卵率の低下や剛便等の異状はなし。	・2月19日、5号鶏舎（通報時497日齢、約1万羽飼養）の東側の列において、南側入口から90ケージ目（1列282ケージ）の4、5段目を中心に約40羽がまとまって死亡。4号鶏舎（通報時224日齢、約1万羽飼養）の東側の列において、南側入口から36ケージ目（1列282ケージ）の6段目を中心に約40羽がまとまって死亡していたため、家保に連絡。	・平時の死亡羽数は20羽/日。 ・2月20日、散在する複数のケージで、それぞれ2羽ずつの死亡と、死亡羽数の増加が認められたため、家保へ通報。同日の発生鶏舎の死亡羽数は50羽。	・平時の死亡羽数は2～3羽/日。 ・3月3日朝に35羽の死亡を確認。西側入口側の南側にまとまって死亡し、圧迫されて濡れた状況の鶏や、胸郭が白っぽく腫れた状態の鶏が確認されたため、従業員が管理獣医師に連絡し、正室や産面による換気不良が疑われることから経過観察の指示。3日は基に1羽、夕方に4羽、夜に10羽の死亡が確認。 ・4日朝の見回りで、入口側にまとまって27羽の死亡を確認したため、管理獣医師が家保に連絡。	・平時における導入後の死亡羽数は2号舎1.8羽、4号舎3.0羽。 ・3月23日に15羽が散在して死亡し、尻つづが飼料摂取量の低下が見られるとともに、45羽の死亡を確認。原因が作動せず、家きん舎内の気温低下による影響と考えた。当該活力低下等は25日まで継続していた。 ・24日に2号舎で25羽の死亡を、4号舎で14羽の死亡を確認。 ・25日朝に2号舎で142羽の死亡を、4号舎の7日齢のロットで74羽の死亡を確認し、家保に連絡。 ・通報の約1ヶ月前から、肥育舎内での死亡羽数がやや多く、育雛舎から肥育舎に移動させる時点のあひるの大きさにばらつきがあり、また、2号舎の鶏の活力は全体的に低下していた。	・16日以前は沈黙等の症状や普段とは異なる様子は見られなかったとのことだが、農場全体としては、除糞ベルトの故障に伴う鶏舎移動等のストレスにより、年明け以降、産卵率の低下や死亡羽数の増加が見られていた。 ・2号舎の死亡数は4月15日8羽、16日45羽、17日72羽、18日88羽、19日284羽、20日533羽。主に鶏舎の東側出入口からみて奥側の1/3ほどで確認され、1ケージあたり1～2羽の死亡であった。 ・農場の経営衛生管理者は、4月16日から4月19日まで不在であり、4月20日夕方に上記の報告を受け、翌日家保に通報。 ・18日までに出勤していた従業員の中で、通報の義務を認識している者はいなかった。	
発生日前までの死亡羽数の推移（発生鶏舎）	5羽⇒4羽⇒3羽⇒6羽⇒30羽	156羽⇒153羽⇒214羽⇒250羽⇒250羽	2羽⇒3羽⇒4羽⇒5羽⇒80羽	17羽⇒14羽⇒18羽⇒30羽⇒50羽	2羽⇒3羽⇒7羽⇒35羽⇒42羽	2羽⇒2羽⇒3羽⇒15羽⇒39羽	2号舎：6羽⇒5羽⇒50羽⇒26羽⇒142羽 4号舎：11羽⇒4羽⇒0羽⇒19羽⇒85羽	8羽⇒45羽⇒72羽⇒88羽⇒284羽⇒533羽
簡易検査結果（気管）	死鶏8/8、生鶏0/2	死鶏6/8、生鶏0/2	死鶏4/8、生鶏0/2	死鶏6/8、生鶏1/2	死鶏8/8、生鶏2/2	死鶏8/8、生鶏0/2	2号舎：死鳥3/8、生鳥0/2 4号舎：死鳥7/8、生鳥2/2	死鶏8/8、生鶏2/2
コンベンショナルPCR検査結果（気管）	死鶏8/8、生鶏0/2	死鶏8/8、生鶏1/2	死鶏7/8、生鶏0/2	死鶏6/8、生鶏1/2	死鶏8/8、生鶏2/2	死鶏8/8、生鶏2/2	2号舎：死鳥6/8、生鳥1/2 4号舎：死鳥6/8、生鳥0/2	死鶏8/8、生鶏2/2
リアルタイムPCR検査結果（気管）	死鶏8/8、生鶏0/2	死鶏8/8、生鶏1/2	死鶏7/8、生鶏0/2	死鶏6/8、生鶏1/2	死鶏8/8、生鶏2/2	死鶏8/8、生鶏2/2	2号舎：死鳥8/8、生鳥2/2 4号舎：死鳥8/8、生鳥2/2	死鶏8/8、生鶏2/2
従業員	1名	13名	7名	21名	3名	25名（農場長・事務担当を除く）	14名（あひるの飼養は3名）	19名
外国人従業員	0名	0名	4名	0名	0名	0名	7名（あひるの飼養は0名）	6名
当該事例から3km以内の発生事例（発生日、距離） （当該事例発生日までの事例）	なし	なし	国内18例目（1月27日発生、北東約1km）	なし	なし	なし	なし	なし
周辺環境	・中山間地の谷筋に位置し、林及び水田に囲まれる。	・平野部に位置し、収穫済みの水田に囲まれる。 ・隣接する田には、夜間にハクチョウやカモ類が飛来。 ・発生の前日から、発生うずら舎の屋根に、多数のムクドリ、スズメ等が飛来。	・平野部に位置し、周囲には耕起された水田が広がる。 ・約2週間前の夜中と早朝に、野鳥の1万羽程度の犬群が西から東に向かって飛来。	・丘陵（雪で覆われる）の畑の裏手に位置。 ・西側は畑と水田が混在し、北と東は樹林地。	・中山間地に位置し、林及び収穫済みの田畑に囲まれる。 ・約2週間前から気温が上昇し、夜間にハクチョウ類等の渡り鳥の群れが農場上空を様々な方向へ飛来。	・農場東や牧草地に囲まれた平地に位置。	・平野部に位置し、小河川や水路、水田（二番種）や落ち藪は少ない）、雑木林や草地に囲まれる。	・中山間地に位置し、雑木林や雑草地に囲まれている。 ・当該地域は冬～春にかけて風が強く、4月21日、22日は暴風警報が発令されており、かなり強い風が吹き荒れていた。
近隣の水場（ため池等）からの距離・野鳥の確認状況	・北側の水田にカワバリ等の群れが飛来。 ・東100mの貯水池は護岸整備が施されており、カルガモ2羽及びキンクロハジロ1羽を確認。 ・北1kmの河川では数羽のカワアイサ以外にカモ類は確認されず。 ・南1kmの池ではコガモ56羽とカルガモ7羽を確認。 ・北西1.5kmの市街地の池でヒドリガモやマガモ等のカモ類47羽を確認。 ・東南1.9kmの市街地の池ではカルガモ35羽及びコガモ1羽を確認。	・周囲の水田にムクドリ等の群れが飛来。 ・周囲は田に隣接。 ・北東2kmの溜池で、1万羽を超えるカモ類を確認（マガモ、トモガモ、オナガガモの順に多確認）。 ・北西2kmの調整池では、マガモ約200羽、コガモ約80羽を確認。 ・北2.2kmの水田では、コハクチョウ約680羽を確認。 ・周囲の水路ではカモ類は確認されず。	・南側に小川あり、川の脇の茂みにはスズメが多く生息。 ・北東200mの水田では、数十羽のハクチョウ類を確認。 ・水田は雪解け間もなく、水が溜まっており、カラス1羽が混じって採食しているのを確認。 ・南側の森林では50羽以上のハシロガラスを確認。 ・農場上空や周囲では10羽以上のトビを確認。	・周囲には複数の池が点在している。 ・南約200mの2か所の池ではマガモ、カルガモほか合計約500羽のカモ類を確認。 ・東約1.2kmの2か所ため池ではマガモのほか合計約500羽のカモ類を確認。 ・東1.8kmの水田では約150羽のオオハクチョウが採食していた。 ・水田は雪解け間もなく、水が溜まっており、カラス1羽が混じって採食しているのを確認。 ・南側の森林では50羽以上のハシロガラスを確認。 ・農場上空や周囲では10羽以上のトビを確認。	・農場敷地内南側に調整池と沈殿池あり、調整池に水はなく、沈殿池はテグスによる野鳥対策あり。 ・農場敷地内南側に調整池と沈殿池あり、調整池に水はなく、沈殿池はテグスによる野鳥対策あり。 ・農場敷地の河川では野鳥は確認されず。 ・東0.9kmの鳥の放牧地にハシロガラスの飛来を確認。 ・南南東2.3kmの河筋湖でマガモ約20羽、カルガモ約20羽。 ・南西2.6kmのゴミ処理センターに18羽のハシロガラスを確認。	・農場上空をハクチョウ類の群れが飛翔。 ・東側の河川では野鳥は確認されず。 ・南東0.9kmの鳥の放牧地にハシロガラスの飛来を確認。 ・南西2.6kmのゴミ処理センターに18羽のハシロガラスを確認。	・東北東1.2kmでコガモ14羽。 ・南東2.8kmでカモ類34羽。 ・南南東2.3kmの河筋湖でマガモ約20羽、カルガモ約20羽。 ・南西2.6kmのため池でカモ類18羽。	・農場周辺には池が点在していたが、1km以内の市街地の池でヒドリガモやマガモ等のカモ類47羽を確認。 ・南西1.4kmの池でマガモ2羽、南西2.4kmの池でカルガモ2羽、コガモ5羽を確認。 ・農場の増肥舎に接する樹林及び上空では、ハシロガラス15羽を確認。
農場内に侵入する野生動物と発見場所（自警・偵察を含む。上空を飛んでいる野鳥は含めず。）	ネコ、イタチ、ネズミ	ムクドリ（増肥舎や糞乾燥舎に侵入）、スズメ、ネコ	スズメ（飼料タンクの裏など）	ネコ、キツネ、タヌキ、イタチ、カラス	シカ、イタチ科、ネズミ	・シカ、アライグマ、キツネ、ネコ ・北側の防風林に100羽程度カラス類が集まる。 ・カラス、スズメ（増肥舎）	ネコ（飼料庫内で確認） 小鳥	ネコ、カラス、スズメ
家きん舎内に侵入する野生動物（自警・偵察を含む）	ネズミ	ネズミ	ネズミ（壁のかじり痕を確認）	ネズミ（第1農場で月に1,500～1,600匹が捕獲される）	なし	クマネズミ	ネズミ、ネコ（食害を受けた死亡あひるを確認）	ネズミ、スズメ 食害あり（ネコと思われる）
農場周辺・農場内のカラス類	・記録なし	・記録なし	・記録なし	【野鳥専門家の調査】 ・水田でカラス類1羽が、オオハクチョウに交じって採食していた。 ・南側の森林では50羽以上のハシロガラスを確認。 【聞取り】 ・カラスが農場敷地内に多数飛来する。	【疫学調査時の観察・聞取り】 ・農場敷地内南側に調整池と沈殿池あり、調整池に水はなく、沈殿池はテグスによる野鳥対策あり。 【疫学調査時の観察・聞取り】 ・農場敷地の河川では野鳥は確認されず。 ・東300mの牛農場に20羽のカラスを確認。このカラスが農場に来ることはない。	【疫学調査時の観察】 ・増肥舎周囲にカラス2羽を確認。 ・南0.9kmの鳥の放牧地にハシロガラスの飛来を確認。 ・南南東2.6kmのゴミ処理センターに18羽のハシロガラスを確認。 【聞取り】 ・農場北側の防風林に100羽程度のカラス類が集まる（防風林を挟んで牛農場あり）。	【野鳥専門家の調査】 農場北300mの河川においてハシロガラス1羽を確認	【疫学調査時の観察】 ・農家の増肥舎に接する樹林及び上空で、ハシロガラス15羽を確認。 ・増肥舎にカラスが複数羽飛入。
疫学情報								
生体の過去21日間の導入日・頻度等	なし	1月14日	なし	2月10,11日（第2・3022号舎）	なし	なし	3月13日、19日	4月20日（3号舎）
生体の過去21日間の出荷日・頻度等（捕鳥・輸送）	1月18日（2号鶏舎1階） 1月19日（2号鶏舎2階）	1月6日	なし	なし	なし	3月2日～3月4日（8号鶏舎）	3月24日（肉の出荷）	なし
飼料業者（輸送）の過去21日間の立入り・頻度等	2日毎	2～3日に1回	2日に1回	毎日	毎日	毎日	3月11,17,25日（週に1、2回）	毎日2～3回
飲料調達（輸送）頻度	入庫時	-	-	-	入庫前	-	平均10日に1回	-
除糞ベルト出口、ビット等のシャッター、蓋等の有無、隙間の有無等	該当なし	床面開口部は木の蓋が設置されているが、隙間あり。	鶏舎内の床面開口部には蓋の設置なし。ビットの開口部は高所。	ベルトが鶏舎外に出る部分には覆いが設置されていたが、隙間あり。	平飼い	除糞ベルトの鶏舎と外部の間には仕切扉の設置あり。 ビットの開口部は高所。	平飼い	床面開口部の蓋あり。
死亡鶏処理の方法、処理の頻度等	毎朝回収後、焼却炉で焼却。	・バケツコンポストに入れ、満杯になり次第、増肥舎に持ち込み。 ・廃うずらは自宅に持ち帰りペット（猛禽類）の餌にする。	除糞ベルトに廃棄し、糞と共に増肥舎で処理。	鶏舎裏口に集め、鶏舎内作業を行う従業員が鶏舎裏口から搬出して軽トラックの荷台へ積み込み、第1農場の焼却炉で焼却する。	鶏舎内のバケツで保管していたものを、軽トラで集め、衛生管理区域外のボックスで保管。同社の回収車がボックスごと回収。回収担当者は系列の他農場でも回収を行うが、各農場で事前消毒を実施。	鶏舎内の入気口のバケツに集め、鶏糞・増肥担当が毎日回収し、農場内で焼却処理。	・衛生管理区域域内の死鳥保管庫で冷蔵保管するが増肥舎内の蓋つきのバケツに保管し、農場従業員が死鳥保管庫へ運搬する。 ・週に5回、死鳥保管庫まで業者が取りに来て回収する。	鶏舎内のバケツに保管のうえ、鶏舎後方の裏口から運び出し、増肥化。
集卵バーコンベア出口のシャッターの有無（手動・自動）、隙間の有無、家きん舎外バーコンベア上のカバーの有無等	肉用	かごと搬出	3号・2号鶏舎から集卵所に通じる部分に手動のシャッターあり。 屋外部分の上部にはカバー設置あり、隙間なし。	全体が集卵ベルト室に覆われている。	肉用	内部通路を通るが、全面がパネルに囲われている。	肉用	バーコンシャッターなし。 屋外部分にはカバーがあるが、隙間あり。
廃棄物処理の方法、処理の頻度等	肉用	糞と混合して増肥化	糞と共に増肥舎で処理。	密閉容器に入れて運搬し、コンポストで鶏糞と増肥化。	肉用	バケツに集めたものを鶏糞・増肥担当者が回収後、コンポスト処理。	肉用	廃棄物は鶏糞レーンに落とすか、集卵室でバケツに保管のうえ、増肥化。
増肥舎・増肥置き場（完熟たい肥を含む。袋詰め後の製品は含まない。）及び死鳥置き場の共有	なし	なし	・生糞の系列農場への運搬あり。 ・系列農場でコンポスト処理された増肥の当該農場への運搬あり。	なし	オールアウト後に搬出し、同社の増肥化施設へ運搬。	なし	なし	・増肥を系列農場に搬出（直近は4月20日）。
発生鶏舎以外での殺処分前検査陽性	なし	なし	なし	なし	なし	なし	有	有
その他特記事項	-	・1月17日に近隣の池で採材した環境試料（水）からHPAI陽性。	・1月17日に近隣の池で採材した環境試料（水）からHPAI陽性。	・ネズミ死体（気管・肺・直腸）からウイルス分離。	-	・通報の4～5日前に北側から強風が吹いていたとのこと。	・自家配合飼料のバラ積み。飼料庫ではネコの出入りあり。	・地震と降雪により除糞ベルトが故障し、鶏糞が堆積。 ・屋根や壁にも地震と降雪による破損あり。